

俳句通信

特別作品25句 南うみを「鋤」

特集・座談会〈切字神話〉よ、さようなら

出席者 岸本尚毅
高山れおな
筑紫磐井(司会・進行)

【実力作家30句】

星野恒彦「空を広げて」

西池冬扇50句「変光星」

【円熟作家12句】

大久保白村 「卒寿目前の二月」
山崎 聡 「春或る日」
桑原三郎 「春障子」
増成栗人 「たうたうたたり」

【3人競詠20句】

黒澤あき緒 「ほろ酔」
名取里美 「東大寺二月堂修二會」
土肥あき子 「泣く前」

●作品● 大木さつき・豊長みのる・太高露海・松尾隆信・西村和子・蒲原ひろし・川口 翼
七田谷まりうす・石倉夏生・細見道子・長島衣伊子・森田純一郎・佐々木六戈・小林貴子ほか

〈切字神話〉よ、 さようなら

出席者／岸本尚毅
高山れおな
筑紫磐井(司会・進行)

切字・切れについて改めて、あるいは新しく考えるときが
きているように思われます。そこで3人の俳人に切字・切れに
ついて一般公開の場で語りあっていただきました。



特別作品25句

鍬

南 うみを

寒明の音の初めの雨しづく
雪のひまペットボトルの転がりて
うすらひの捨田に何の杭打つや
雪片のぺたぺた当たる辛夷の芽
芽起こしのこゑのほりゆく父祖の山
下萌や鍬に楔の新しく

西池冬扇 50句

変光星

干鰯を叩いておれば春夕焼
マンサクに眼をこらしたる眼の疲れ
豆を打つ闇の奥なら底がない
春三日月の切っ先に変光星
ふくろうが朧の夜を転がって
三越の前の通りの牡丹雪
丸善のインキ二瓶三月尽

にしいけ・とうせん
昭和19年(1944年)4月29日・大阪生まれ東京育ち
高井北社・松本旭に師事
「ひまわり」俳句主宰継承
句集に「変星」ほか
評論に「高浜虚子・未来への触手」ほか



前列右から守屋氏、津久井氏、鈴木氏
後列右から星野氏、藤本氏

ゲスト 鈴木太郎・津久井紀代
守屋明俊

ホスト 星野高士・藤本美和子

編集部 超結社句会第56回目です。ゲストは「雲取」主宰の鈴木太郎さん、「天為」「樵」同人の津久井紀代さん、「未来図」編集長の守屋明俊さん。あと、おひとりは感染症の心配がある、とのことで、欠席となりました。今日は5人での句会です。ホストは「玉藻」主宰の星野高士さん、「泉」主宰の藤本美和子さんです。遠慮のない意見交換をお願いします。高士 今日ほとんど句に点が入っていますね。では、始めます。これだけの人数ですから、作者が分かっってしまうかもしれません。作者は知らん顔していただきますね。では、本日の最高点4点の句からいきます。

大仰に包む落雁雪解風

（明俊）

明俊 「落雁」の紙を「大仰」と言ったのはすごく効いているなど。何が出てくるんだらう、という感じで紙を開けますからね。それと「雪解風」がうまくマッチしていると思って、これは採らざるを得ないな、と思いました。

美和子 「落雁」と「雪解風」という季語の取り合わせが美しいなと思った。多分、「落雁」を包んでいる和紙で、ちよつと透けている感じがするので、それが季語によってよく出ていえると思ったんですけど。ちよつと「大仰に」は言わないで、